「日医標準レセプトソフト」

ORCA Project

日レセ運用環境移行手引き

（Ver5.2.0（WebORCA オンプレ版））

→（ Ver5.2.0（WebORCA オンプレ版））

2024 年 1 月 11 日

日本医師会ＯＲＣＡ管理機構

改訂内容

2023 年 6 月 22 日	初版
2024 年 1 月 11 日	WebORCA オンプレ版へのリストアについて補足を追加

日医標準レセプトソフト「以下、日レセとする」を運用中であり、新規にサーバマシンを準備して運用環境を移行する場合の方法について説明します。この手引きでは以下の組合せについてとなります。

現在運用中環境	移行先運用環境
WebORCA オンプレ版 Ver5.2.0	WebORCA オンプレ版 Ver5.2.0

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

WebORCA オンプレ版 Ver5.2.0 運用中環境での作業

データバックアップ

必要なデータを外部媒体へバックアップします。

事前に下記ついて問題がないことを確認したうえでデータベースのダンプ作業を進めてください。

・スキーマチェックでエラーが発生しないこと

データベーススキーマチェック
https://www.orca.med.or.jp/receipt/use/schema-check-tool.html

1．WebORCA オンプレの停止

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt-weborca
```

2．作業領域の作成

一時的な作業領域を確保するために以下のコマンドを入力して下さい。

```
$ mkdir ~/(作業用ディレクトリ名)
```

3．データベースのバックアップ

```
$ cd /tmp
$ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > (バックアップファイル名).dump
$ cp (バックアップファイル名).dump ~/(作業用ディレクトリ)
```

4．バックアップの暗号化(gpg)

作成したバックアップファイルを gpg コマンドで暗号化します。

暗号化方法には「パスフレーズによる暗号化」と、予め公開鍵を作成しておき、その鍵を暗号化の際に使用する「鍵による暗号化」の２つがありますが、ここでは、「パスフレーズによる暗号化」とします。

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

パスフレーズによる暗号化

以下のように、暗号化する際にパスフレーズの入力が求められます。ここで入力したパスフレーズが復号化の際に必要となります。また、入力したパスフレーズは画面に表示されまん。

```
$ gpg -c ~/(作業ディレクトリ)/(バックアップファイル)
パスフレーズを入力:(パスフレーズ)
パスフレーズを再入力:(パスフレーズ)
```

作業ディレクトリの中に[.gpg]の拡張子が付いたファイルが作成されます。このファイルが暗号化されたバックアップファイルになります。

5．バックアップファイルを削除

暗号化したバックアップファイルを残し、元のバックアップファイルを削除します。

```
$ rm ~/(作業ディレクトリ)/(バックアップファイル)
```

バックアップファイルは[.dump]の拡張子が付いたファイルを指定します。

6．外部媒体へバックアップをコピー

作業ディレクトリに作成したバックアップファイルを外部媒体へコピーします。コピー方法については、Linux のマニュアル等を参照して下さい。また、外部媒体のマウント方法については、媒体を接続しますと自動でマウントされます。もしも自動でマウントされない場合は Linux のマニュアル等を参照してマウントを行って下さい。

作業ディレクトリをコピーします。

```
$ sudo cp -rp ~/(作業ディレクトリ) (複写先)
```

以上でデータバックアップの作業は完了です。

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

日レセサーバマシンの準備

新規のサーバマシンを準備し、移行先運用環境とする日レセバージョンをクリーンインストールします。

※日レセバージョンは 5.2.0（jma-receipt-weborca オンプレ版）です。

データベースの復元

バックアップからデータベースの復元

新規サーバマシンにバックアップからデータベースを復元します。

1．日レセの停止

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt-weborca
```

2．作業領域の作成

/tmp/に一時的な作業領域を確保するために以下のコマンドを入力して下さい。

```
$ mkdir /tmp/(作業用ディレクトリ名)
```

3．バックアップした媒体からハードディスクへのコピー

バックアップした媒体から一時領域へコピーします。 なお、コピー方法については、Linux のマニュアル等を参照してください。また、外部媒体のマウント方法については、媒体を接続しますと自動でマウントされます。もしも自動でマウントされない場合は Linux のマニュアル等を参照してマウントを行って下さい。

作業ディレクトリをコピーします。

```
$ sudo cp -rp（複写元）/tmp/(作業ディレクトリ)
```


ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

4．データベースバックアップファイルの復号化

$ gpg /tmp/(作業用ディレクトリ)/(暗号化されたファイル名)

データベースのバックアップファイルを復号化します。

実行するとパスフレーズの入力を問い合わせてきます。 パスフレーズを正しく入力すると暗号が解除され、ダンプファイルが生成されます。

5．ダンプファイルのインポート

ダンプファイルからデータベースを復元します。

Ubuntu22.04 ではホームディレクトリに配置したダンプファイルをリストアできないため、ダンプファイルが/tmp/以下に配置されていることを確認したうえでしたうえでリストアをおこなってください。

$ /opt/jma/weborca/app/bin/onpre_db_import.sh /tmp/(作業ディレクトリ)/(ダンプファイル)
※ sudo は不要です。またダンプファイルの指定は絶対パスで入力してください。

エラーが発生した場合は/tmp/jma-receipt_db_check.log や/tmp/onpre_db_import/のログを確認してください。

※ リストア時に「ERROR: データベース orca に接続しているアプリケーションを終了してから実行してください。」が表示された場合、「etc/postgresql/バージョン番号/main/」内にある「postgresql.conf」の「#autovacuum = on」を「autovacuum = off」に変更し、postgresql の再起動をおこなってください。

正しくリストアできた後は必ず「#autovacuum = on」に戻し、postgresql を再起動してください。

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

６．データベースのセットアップ

jma-setup をオプション無しで実行します。

```
$ sudo /opt/jma/weborca/app/bin/jma-setup
```

古いバージョンからのリストアの場合は、構造変更処理が実行されデータベースのバージョンが更新されます。

以上でデータベースの復元作業は完了です。

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

日レセ WebORCA オンプレ版運用環境の復元

バージョン **5.2.0** でのセットアップ

1．プログラム更新処理

日レセプログラムを最新にします。

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt-weborca
$ sudo weborca-install
$ sudo weborca-install -l  バージョンを確認できます
```

2．日レセの起動

日レセを起動します。

```
$ sudo systemctl start jma-receipt-weborca
```

※日レセの起動によりテーブルスキーマが更新される場合があります。

3．スキーマチェック

データベースの状態をチェックします。

最新のチェックファイルによりチェック処理を行うため以下の方法により処理を行います。

```
$ cd /tmp/
$ wget http://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/jma-receipt-dbscmchk.tgz
$ tar xvzf jma-receipt-dbscmchk.tgz
$ cd jma-receipt-dbscmchk
$ sudo bash jma-receipt-dbscmchk.sh
```

処理が終了したらメッセージが表示されます。作業ディレクトリ

(jma-receipt-dbscmchk/)に jma-receipt-dbscmchk.log というファイルが作成されます。

ファイルの内容を確認してください。

整合性に問題なしと出ればスキーマは問題ありません。

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

４．プラグイン設定

プラグインにより外部プログラムの組み込みを行っていた場合は処理をおこなってください。

※ パッケージリストファイルを見直します。

パッケージリストファイル（/opt/jma/weborca/app/etc/jppinfo.list）は 5.2.0 用の標準用ですが、独自サイトのプラグインを使用している場合は設定を見直してください。

クライアント（ブラウザ）から日レセに接続し、「マスターメニュー」→「プラグイン」より、手動で「組込」または「個別更新」をおこない、プラグインの組み込みを行ってください。

以上で運用環境の復元作業は完了です。

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.

その他運用環境の設定

２台運用

Ver.5.2.0

WebORCA オンプレ版では dbredirector を廃止し、PostgreSQL 標準の機能を利用して同期をおこなう方法に変更しています。

https://www.orca.med.or.jp/receipt/use/2units_opretation_settings.html

※ PostgreSQL のバージョンは「14」に読み替えてください

※日レセサーバの再起動 $ sudo systemctl restart jma-receipt-weborca

CLAIM サーバ起動

端末から以下のコマンドを実行し、claim.service の有効化と起動を行います。

内容

日レセ 5.2 以降
端末から以下のコマンドを実行し、claim.service の有効化と起動を行います。

```
$ sudo systemctl enable claim.service
$ sudo systemctl start claim.service
```

claim の待受ポートを変更する場合は /opt/jma/weborca/conf/jma-receipt.conf に以下のように'CLAIM_PORT=ポート番号'を追記してください。

```
CLAIM_PORT=9000
```

日レセ CLAIM 送信設定については「システム管理」-「CLAIM 接続情報」のマニュアルをご覧ください。

その他変更点については、下記「WebORCA オンプレ版の留意事項」をご確認ください。

https://www.orca.med.or.jp/receipt/download/jammy/index_dummy.html#attention

ORCA Project Copyright(C) ORCA Management Organization Co., Ltd.All rights reserved.